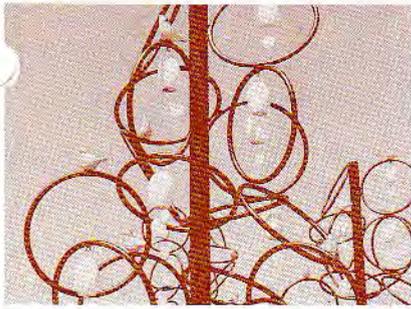


陶情報

商品企画・デザイン情報

1991・2

VOL・2



1. 風の樹(風鈴)

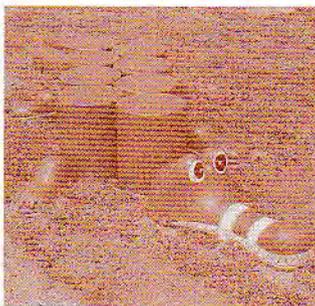


2. 風の樹(風車)

パブリックセラミックス展'90 会場風景



3. 花ベンチ



4. 動物ベンチ



5. 水呑み・噴水

パブリックセラミックス展 '90

1990年6月、信楽町に開設された「滋賀県陶芸の森」を会場にして当场主催の試作展示会をおこないました。400平方メートルの屋外の芝生の上で60日間におよぶ展示となりましたが、プレ世界陶芸祭、また信楽陶器祭の開催時期と重なったこともあり、多くの方が会場を訪れ盛況のうちに終わりました。

会期中広い年齢層の方から多くの感想をいただくことが出来、今後の開発の方向を探る上でも有意義な展示会となりました。

今回のテーマであるパブリックセラミックスとは、公園や広場また遊歩道など屋外の公共空間をより快的にするための陶器製品をさします。当场では遊び心のある様々な作品を試作しその提案を行ないました。

出品物（表紙写真参照）

1. 風の樹(風鈴) 風が奏でる鈴の音を楽しむモニュメント
2. 風の樹(風車) 風に揺らぐカラフルな風車のモニュメント
3. 花ベンチ 広場に咲く大きな花のイメージの陶製ベンチ
4. 動物ベンチ ユーモラスな動物を形取った陶製ベンチ
5. 水呑みと噴水 動物をモチーフにした水のみと噴水
6. プレイランドタイル 飛石のように並べたゲームも楽しめる陶板

毎年行なっている試作展ですが今回はこれまでにはない初めての試みや、初めての体験が多くありました。

一つはこれまでのような屋内展示でなく屋外の広い会場での展示に踏み切ったこと、それも2ヵ月間という長期にわたったことです。

もう一つは陶器以外の素材（金具、木材、コンクリート、等）を取り入れ、それらを陶器と組み合わせたことで、それぞれの素材の特性を活かした製品づくりを心がけた点です。

そしてまた、見ていただくだけでなく、製品に触ったり座って休んだりすることが出来るようにするため、施設として耐えられる強度と安全性を持たせることに最大の注意を払いました。

会期中には大変多くのことを学ぶことが出来ました、屋外では日影や座って休める場所の必要性が大変高いこと、そういった装置の素材として耐候性があり表現力の豊富な陶器製品が適当であること。

耐久性については雨風の影響より、人のものの扱いかたが大きな要素であること、家の中のものを大切にしている日本人が外でたいへん乱暴であることにはとても考えさせられました。

求評会には中瀬勲（兵庫県自然系博物館 設立準備室主任指導主事）吉村元男（環境事業計画研究所所長 大阪大学講師）の両先生を御招きし、参加された工業組合員の方々等と共に多くの貴重な御意見を伺うことが出来ました。

信楽焼坏土の高品質化多品種化に関する研究(講習会)

平成元年度技術開発研究費補助事業(国補)による研究成果普及講習会が当
会議室に於て平成2年11月7日に開催されました。当日は表題の研究発表のほか
二つの特別講演が行なわれました。

◇ 講演要旨

信楽で使用されている坏土について、その品質の変動を把握するために、信楽陶器工業協同組合の協力を得て、組合製土工場における現況調査を行なった。次に、品質の安定化を図る目的で代表的な粘土質原土について水簸処理を行なうとともに、その水簸処理粘土と非可塑性原料(長石、陶石)を調合するという新しい方法で坏土の調整試験を行なった。

それにより現在信楽焼で使用されている原土の品質と製品坏土の関係が把握できた。

使用原料のうち蛙目質原土は木節原土よりも品質に大きなばらつきがあるにもかかわらず製品である坏土の品質が安定していた。しかし長期的には製品坏土の品質の低下が見られ今後原土の管理とその処理方法が製品坏土の安定化のために重要であると考えられる。水簸土を使用した調合試験で良好な結果が得られた事にみられるように原土の一時加工を行なうことは製品である坏土の安定化につながり、又原料にあった一時処理を行なうことにより処理時間の短縮など設備の効率的な運転が可能となるとともに、多品種坏土の生産にもより適していると考えられる。

発表者 滋賀県立信楽窯業試験場

主査 黄瀬 栄 藏

参照 (成果普及講習会用テキスト)

(信楽窯業試験場業務報告 平成元年度)

特別講演 1

「日本の粘土鉱床について」

講師 工業技術院地質調査所

近畿、中部地域地質センター

主任研究官 小林 良二

鉱床の形態区分として層状鉱床、塊状鉱床などがあり、成因型区分として体積(性)鉱床、熱水(性)鉱床、風化残留(性)鉱床、続成鉱床がある。

日本の主な粘土鉱床の位置、生成時代、成因、主成分、用途について。

益子地域、瀬戸地域等を例に、その鉱床の詳細な考察。

熱水変質作用による累帯分布の各型。

風化残留鉱床(伊那カオリン鉱床)の例。

特別講演 2

「坏土と釉薬との関係について」

講師 工業技術院名古屋工業技術試験所

主任研究官 高嶋 広夫

釉薬の貫入とシパリング現象について、その発生原因を坏土と釉薬のあいだの熱膨張係数の差と構造的な弾性にみたときの考え方とその対策。

釉中のアルカリ、アルカリ土類と珪酸のはたらき。

世界陶芸祭の開催迫る

滋賀県陶芸の森を主会場にして信楽町一帯を舞台に平成3年4月20日より37日間にわたって「世界陶芸祭セラミックワールド信楽'91」が開催されます。ここではその計画の一端を紹介します。

○陶芸遊園地

パブリックセラミックス展'90をより拡大発展させ、主に大形の陶製品で構成した広場。水の迷路、大形陶板（ネコロンバン）、雲の広場等楽しい企画にご期待ください。

（企画制作 信楽窯業試験場）

○国際陶芸シンポジウム信楽'91

やきものの多様性とその未来について討議する。国際陶芸アカデミー信楽会議を同時に開催。

○野焼きフェスティバル

焼物の原点とも言うべき野焼きに注目し、今もその特徴的な技術を受け継いできているインドネシアから7人の陶工を招き、現地で行っているそのままの仕事ぶりを再現。

○ワークショップ「登り窯、穴窯イベント」

○コンペ企画展

「陶を素材とする公共空間への提言」をテーマに多くのアイデアが寄せられ、一次審査によって選ばれた作品の制作が今町内の陶器会社で行われており、会場に置かれた後二次審査が行われ大賞が決定します。

○世界やきもの紀行

ハイビジョン映像による世界の焼物の交流史。

○国際現代陶芸展

現代陶芸の流れの中で1980年代後半以降のもっとも新しい動向に着目した展示。

○世界の形象土器展

摂氏千度以下で焼かれた多孔質のやきもので動物や人物などを形象的に表現したものを形象土器と呼びます。そのなかには人々の生命観、神秘的なものへの畏怖などの豊かな表現を見ることが出来ます。インドをはじめ様々な国の形象土器を展示。

○ヨーロッパの名窯展（18・19世紀）

○「土をうたう」

○世界の陶器市

○陶と花のふれあい展

○近江の名陶展

○信楽：歴代の名工展

○信楽現代作家展

陶 情 報

VOL.2

平成3年2月発行

滋賀県立信楽窯業試験場

滋賀県甲賀郡信楽町長野498

TEL 0748-82-1155 〒529-18